

図書館だより

埼玉県立図書館

20号



20
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
130 1 2 3 4
cm

七夕 (たなばた)

四つ前（午前十時）までに
里芋の葉に結んだ露を硯に採り
墨をすって五色の短冊に

「勉強ができますように」
「字が上手になりますように」

と多くの願いごとを書いた
若竹の枝につるし軒場に掲げる

空には大きな夢が風に揺れていた
その夜牽牛と織女の星々は
それぞれ真菰の馬に乗つて
天の川を渡る

一年に一度の会う瀬をたのしむ
という中国（乞功奠）からの
言い伝え

どこにもあつた遠い素朴な行事
今や豪華な原色ビニールの
七夕竹が街を飾っている

(S)



の言葉に「東北に来て、こけし工人がパンガキという便利な刀物一丁で仕上げをすませるのに感心した。二けしはパンガキによつて、つくられるともいえる。東京の同业者だと新しい挽き物玩具をつくるときには、そのたびに新しい刀物を考案する。だから、もしも、こけしをつくるとなると手や足をつける工夫もして、もっと細工を凝つたものにしてしまうだろう」と。

この文の始めに「想像力」という言葉を用いたが、辞書で「想像」を引くと、もとシナでは「想像」とも書いた。シナには象がいなかつたので、象の姿を思い浮かべる意から、思いやりのこと。おしゃかることである。

が売り物の「鐘馗」は、段飾りから除かれて人気は低下。

理想の男性の条件に「やさしさ」が求められる五月人形異変である。業者の弁に、購入の際わわたすと女性の方が圧倒的に多い。時代の期待と納得に、微妙な変化があるのを知らされた。

(郷土玩具文化研究会会員)

象

玩遊雑記

石井莊男

イラストを筆者

ロボットによる生産、エレクトロニクスの利用、世は正に機械化万能の時代である。しかし現代人はその目まぐるしい競争社会の中から、忘れかけていた職人による手仕事の面白を見直すようになってきた。

都会の若い人たちの間にも古きよき時代への关心が高まり、アンティーク・ドール、古時計、家具などの収集が盛んのようである。

郷土玩具もそのような影響をうけて、しだいに世の人びとから注目されるようになってきた。

明治以前の鎖国時代に庶民の間で土、木、紙などを材料にして、家内工業形態で盛んにつくられ、當時各地方の幼い子たちに親しまれていたが、明治になり西洋の機械製玩具の進出で、子どもたちの関心を奪われた日本の古い人形、おもちゃは急速にその姿を消していった。

その後各地で細々とつくられた古い人形・玩具は大人の郷愁を引き集められて珍重されるようになり、「郷土玩具」という名称も上

私はいまなお収集をつけている。
久の浜(福島県)象のり童子、浜松の象車そして弘前(青森)のり天神など、いずれを見ても、張りぼて又はだぶだぶの布張りのような象に思わず頬がゆるんでくる。この奇抜な、こだわりのないかつての日本人の想像力と技倆に、親しみをもつばかりではなく感心する。

昭和五十七年の東京国立劇場正月興行に「象引」が復活された。二十四年ぶりの上演である。戦前の「象引」を写真で見る限りは郷土玩具の象をそのまま大きくしたような造形である。今日の歌舞伎はこの荒事狂言の象をどのように再現するか興味と期待をもつてお濠に沿つた三宅坂をのぼつていった。

芝居の粗筋は関東武士の代表ともいえる主人公の箕田源二猛が大友鶴

磨という権力をカサにきて横車を押し通す悪公卿に、敢然と立ち向う正義の味方といった活劇で、天朝に獻上するため、唐の國から海を渡つて浦賀に上陸した象が、京へ上る途中に箱根の山中で逃げ出し江戸に現れて江戸の町は大騒動となり、悪玉の褐磨(羽左衛門)と善玉の猛(松緑)が象を退治すべく引き合いを競い、しかし荒事にはもともと話が象を退治すべく引き合いを競い、まさに幼少の葵丸の仲裁で、まず目出たし、目出たしの三幕の芝居である。しかし荒事にはもともと話の筋といつたものはあまりなく、あくまで豪快さ、力強さを見せる場面の盛り上がりが、芝居の見せどころである。

この作品の目玉となる大象は三種の形で舞台に登場する。一つは、大

象をそのまま大きくしたような造形である。今日の歌舞伎はこの荒事狂言の象をどのように再現するか興味と期待をもつてお濠に沿つた三宅坂をのぼつていった。

芝居の粗筋は関東武士の代表ともいえる主人公の箕田源二猛が大友鶴

胴体は鉄骨と真竹をあわせ用いて輪つなぎを組立て、その上にスポンジ着し、さらに今日のマスコミは「民芸玩具」なる呼称も使いだした。その古い珍なるものに魅せられ、私はいまなお収集をつけている。
私はいまなお収集をつけている。
久の浜(福島県)象のり童子、浜松の象車そして弘前(青森)のり天神など、いずれを見ても、張りぼて又はだぶだぶの布張りのような象に思わず頬がゆるんでくる。この奇抜な、こだわりのないかつての日本人の想像力と技倆に、親しみをもつばかりではなく感心する。

昭和五十七年の東京国立劇場正月興行に「象引」が復活された。二十四年ぶりの上演である。戦前の「象引」を写真で見る限りは郷土玩具の象をそのまま大きくしたような造形である。今日の歌舞伎はこの荒事狂言の象をどのように再現するか興味と期待をもつてお濠に沿つた三宅坂をのぼつていった。

芝居の粗筋は関東武士の代表ともいえる主人公の箕田源二猛が大友鶴

が舞台に登場する。一つは、大

象をそのまま大きくしたような造形である。今日の歌舞伎はこの荒事狂言の象をどのように再現するか興味と期待をもつてお濠に沿つた三宅坂をのぼつていった。

芝居の粗筋は関東武士の代表ともいえる主人公の箕田源二猛が大友鶴

が舞台に登場する。一つは、大

● 土曜映画会	
日時	8月11日(土) 14時
内容	
「さくらんぼ坊や」	
内容	
「みる・きく・たしかめる」	

東 正 南 北	
● 記録映画会	
日時	7月26日(木) 14時
内容	埼玉ニュース No.227
(内容は未定)	

一 創りだす自分のせかい 一	
● こどもえいがかい	
日時	8月4日(土) 10時／14時
内容	「おこりじぞう」「猫は生きて
いる」	

二 なまけもの	
● 定例映画鑑賞会	
日時	8月18日(土) 10時／14時
内容	「徳川家康」
日時	9月8日(土) 10時／14時
内容	「おこりじぞう」「猫は生きて
いる」	

三 なまけもの	
● 記録映画を見る集い	
日時	7月20日(金) 12時15分
内容	「減びゆく野性の動物達」「北
海道の湿原」	

四 なまけもの	
● 夏休み子供映画会	
日時	8月9日(木) 10時／14時
内容	「おやゆびひめ」
日時	8月23日(木) 10時／14時
内容	「はなさかじいさん」「おこ
りじぞう」「白鳥とベベロ少	
年の冒険」	
に立つ」	

五 なまけもの	
● 夏休み親子映画会	
日時	7月20日(金) 14時
内容	「おこりじぞう」「先生と十
人の子どもたち」	
日時	8月30日(木) 13時30分
内容	「はだしのゲン」「チビ六・二死満
島丸」	

六 なまけもの	
● レコードコンサート	
日時	7月19日(木) 12時15分
内容	「はだしのゲン」
日時	8月2日(木) 12時15分
内容	「バッハ」「トック Carter」とフーガ
日時	8月23日(木) 12時15分
内容	「二短調」

七 なまけもの	
● ビデオコンサート	
日時	7月28日(木) 14時
内容	「レモンの季節・松田聖子」
日時	8月11日(木) 14時
内容	「アリスト、11・07」
日時	8月25日(木) 14時
内容	「夏休み子ども映画会
日時	7月26日(木) 13時30分

埼玉の埼玉の詩人たち ▽ 1 △

太田 玉茗

近代詩の開花は、明治十五年の「新体詩抄」、二十二年の訛詩集「於面影」、三十年の「抒情詩」と「若菜集」によつてなされた。

「抒情詩」は、国木田独歩、松岡國男、田山花袋、矢崎嵯峨之舎、宮崎湖處子の合著詩集で、自然美への清新な憧憬をもつ、素朴な真情にあふれる浪漫的抒情を感傷的にうたつた。

太田玉茗は、温雅なうちに幽遠な味をたえた詩風をもつ、埼玉の生んだ最初の近代詩人であった。

玉茗は幼名を伊藤蔵三、のち太田玄綱、さらに三村玄綱と改めた。筆名は玉茗のほか、元綱、玉茗堂主人などがある。明治四年五月六日、埼玉県忍町(現・行田市)に生まれた。父は元忍藩士、後大藏省勤務。玉茗は五男三女の八人兄弟で、妹りさは、後に田山花袋の妻となる。

二十四年、東京専門学校(現・早稲田大学)文学科入学。二十五年、稻田(現・行田市)に生れた。玉茗の父は元忍藩士、後大藏省勤務。玉茗は五男三女の八人兄弟で、妹りさは、後に田山花袋の妻となる。

太田玉茗は、温雅なうちに幽遠な味をたえた詩風をもつ、埼玉の生んだ最初の近代詩人である。明治四年五月六日、埼玉県忍町(現・行田市)に生まれた。父は元忍藩士、後大藏省勤務。玉茗は幼名を伊藤蔵三、のち太田玄綱、さらに三村玄綱と改めた。筆名は玉茗のほか、元綱、玉茗堂主人などがある。明治四年五月六日、埼玉県忍町(現・行田市)に生まれた。父は元忍藩士、後大藏省勤務。玉茗は五男三女の八人兄弟で、妹りさは、後に田山花袋の妻となる。

二十四年、東京専門学校(現・早稲田大学)文学科入学。二十五年、稻田(現・行田市)に生れた。玉茗の父は元忍藩士、後大藏省勤務。玉茗は幼名を伊藤蔵三、のち太田玄綱、さらに三村玄綱と改めた。筆名は玉茗のほか、元綱、玉茗堂主人などがある。明治四年五月六日、埼玉県忍町(現・行田市)に生まれた。父は元忍藩士、後大藏省勤務。玉茗は五男三女の八人兄弟で、妹りさは、後に田山花袋の妻となる。

二十四年、東京専門学校(現・早稲田大学)文学科入学。二十五年、稻田(現・行田市)に生れた。玉茗の父は元忍藩士、後大藏省勤務。玉茗は幼名を伊藤蔵三、のち太田玄綱、さらに三村玄綱と改めた。筆名は玉茗のほか、元綱、玉茗堂主人などがある。明治四年五月六日、埼玉県忍町(現・行田市)に生まれた。父は元

その後、四年近く過ぎましたが、
今回も、その間に刊行され、川越図
書館で受入れたもの、また、前回、
紙面の都合で掲載できなかつたもの
も紹介します。
なお、新聞の複刻版も何点か受入
れましたので、これも掲載します。
明治時代に広く親しまれた大衆向
雑誌「團團珍聞(まるまるちんぐん)」
など珍しいものがあります。
これらの資料は、館外貸出はでき
ませんが、川越図書館でいつでも御
覧になれます。
遠方の方は、最寄りの図書館内に、
お申し込みください。

キンダーブック観察絵本 フレーべ
ル館 昭53 (日本玩具研究会
昭27-17)

金の舟、金の星 ほるぶ出版 昭58
(キンノツノ社→金の星社 大8
-昭3)

工程・綴方学校 教育史料出版会
昭55-57 (椎の木社 昭10-昭
15)

国学院雑誌 第一書房 (国学院大
学編 明27-大13)

心の花 教育出版センター 昭55-
56 (心の花刊行会→竹柏会 明
33-大1)

埼玉及埼玉人 埼玉及埼玉人社 大
12 (昭12) (原誌)

人類学会報告	(人類学雑誌)	・ 東京	農業経済研究	岩波書店	昭2(11)
三一書房	昭56(1)58	(人類学会)	龍溪書舎	昭56	(農業経済学会 編 大14(1)昭39)
・ 東京人類学会	明19(1)大14)		農務時報	御茶の水書房	(農林省 編 昭3(1)15)
青輔	龍溪書舎	昭55	(青輔社		
明44(1)大5)					
世界婦人	龍溪書舎	昭56	(世界		
婦人社	明40(1)明42)		博物館研究	日本博物館協会	昭54
太陽	日本名著出版	昭50-56	(博	(博物館事業促進会	昭3(1)49)
文館	明28)			婦人戦旗・働く婦人	・ 戰旗復刻版刊
卓上噴水	冬至書房新社	昭54	(人	行会	昭55 (日本プロレタリア 連盟 昭6(1)7)
魚詩社	大4)		プロレタリア藝術・前衛	行会	昭57-58 (日本プロレタ
帝國文學	日本図書センター	昭55	版刊行会	リア演劇同盟 昭6(1)8)	
(大日本図書	明28(1)大9)		リ亞芸術連盟・前衛芸術家同盟		
童話	昭57	(コドモ社	大9(1)大		
15)					

讀書ケル一ノ
の紹介

「道芝」のように心のふれあいを大切にしたいという願いをこめて「みちしば読書会」と名付けて発足したこの会も十二年になります。

県立図書館の本をお借りして期日までに読み、月一回集会所に集つて読書会を開きます。十二人のなごやかな楽しい会でこの日を楽しみにしているようです。私達のグループでは各自が読書ノートをつけています。書名・著者・あらすじ・感想・話し合つてみたいことなど項目ごとに記録し、これらをもとに話し合いますが、年代の差もあり受けとめかたも違ひ大変参考になります。

テキストの本は現代の作品に片寄らず、すぐれた作家の作品にも目を向けて選ぶようにしています。中でも『放浪記』『山の音』『こころ』の読書会など講師の先生の御指導もあり深く読み味わうことができ感動したすばらしい本でした。

源氏物語の学習を予定しています。大変わかりやすく解説された十巻のテープを聞いて話し合いたいと思っています。

それから、年度末までに文集二号を発行することになり、暇を見て読書感想文を書いておりますが、文にまとめる仕事は大変ですが頑張っています。

本という縛で結ばれた私達ですが心のふれあいを大切に、読書を心の糧として教養を高め、人生を豊かに生きたいと思っています。

よい本との出会いを楽しみに、なごやかな楽しいこの会を、これからも長く続けて行きたいと願っています。

に参加した数名の小学校 P.T.A. の中から、読書会結成希望の声があがつた。さつそく、県 Y.B.C. 事務局から関係書類を取り寄せ、大会参加者、P.T.A. 女子幹部役員を通じて呼びかけた結果、会員は十グループ百余名となつた。

そこで参加グループの相互理解、連絡を深めるための連合体が必要となり、各グループ代表を運営委員とした「大麻生ともしひ会」が翌年八月発足した。

県の移動図書館（近年は市移動図書館経由）で運ばれる団集図書による読書会。郷土史研究家等を講師とした講演会、グループ運営発表を兼ねての総会等、地味ではあるがその活動が軌道に乗った五年目、文集「レモシビ」第一号を発行した。

昭和五十五年からは機関紙発行を企画、運営委員が機関紙企画委員を兼ねて、割り付け・原稿募集の任に当り、会員の随筆・感想文、グルー

への文学散歩を早々と済ませて、発足十周年記念の文集作りの案を練っているが、これも予算の関係でがり版手刷りの予定である。

十年一昔、発足当時のリーダーも転居・病気・死亡等で数名が第一線を退き、後継者の無いまま休会に入つたりして現在は五グループ六十余名となつてしまつた。それに加えて主婦の職場進出が多く、夜間や日曜以外の行事の出席は極端に少なくなつてしまつてゐる。

運営委員の力強い奉仕と会員の協力でともし続けた文化の灯も、十年を一期として、その運営を再検討する時期となつてしまつて、若い母親の読書意欲の啓発、地区内他団体との協調等、今後の課題はつきない。

大麻生ともしび会

普活動報告を中心に据え、県立や市立図書館・YBC・熊谷市読連協の行事紹介や参加者の内容報告等を掲載して、会員の研修と意識の高揚に

おねすねぐらさい

今日は、こども室のレフアレンスの様子をご紹介しましよう。

こどもたちは、学校の宿題についての調べものを見図書館でするほか、こんなことも聞いてきます。例えば、「ロボットの本ない?」

「お化けの出てくる、こわい本どこにある?」

大人も、また

「昔読んだ本ですが、お姫さまが出て来て、王子さまが、何かに変わるお話があつたんですけど、探していただけます?」

「魔女がぼうきに乗って空を飛んでる絵の載つてる本ありますか?」などなど、いろいろな質問が寄せられます。

先日は、「小人の本たくさん読み

たいのですけど、ありますか?」と
女の子が聞いてきました。
書架の間を歩きながら「今までど
んな本を読んで、どんな本が好きな
の?」と聞くと、「ほとんど読んで
ないから、どんな本を読んでよいか
わからないけど、宮沢賢治が好きな
んです。」と言う。今、中学一年生で
最近友だちの影響で本が好きになっ
て読み出したと言う。何種類か紹介
したうち次の本、
●佐藤さとるのコロボックル物語
を借り、こども室では、すぐ読める
本を読んで行くと言つて絵本をとり
「この本は、小さい頃に英語で書い
てあつたのを見せてもらつて、きれ
いだな」と思つていたんです。」と

うれしそうに話していました。——
そうそう、公共図書館を利用する事
どもたちは、年齢に関係なく自由に
好きな本を読めるのです。
その後も彼女は、小人の本を読み
つづけています。

このように、本の中に出でくる、
人や動物で質問があると、参考にな
る本があります。

*「主人公別リスト」がそれです。
もくじを見ると、
お姫さま・王子さま・小人・魔法
使い・やまんば・天狗・おばけ・龍
・いぬ・たぬき・にわとり・ねずみ等
こんな主人公別・動物別・登場者別
に集めています。内容は、書名・
著者名・出版者名となつていて、2
卷の方には、内容紹介文のついてい

- * 1. 「主入公別リスト1・2」佐藤涼子他編
児童図書館研究会・児童図書館員講書会
- * 2. 「こともの本」こともの本編集委員会
日本児童書出版協会(月刊)
- * 3. 「ことものと読書」親子読書、地域文庫全
国連絡会 言波書店(月刊)

このほかには、
「こともの本」では、
さがしています、こんな本
「ことものと読書」では、
作品再読

でテーマ別の本の紹介をしていま
す。コピーして種類別に分けておく
と、質問があつたときに役立ちます。
ことものと本を出会わせるよい資料で
す。

編集後記

プロレタリア文化・コツブ 戦旗復刻版刊行会 昭54 (日本プロレタリア文化連盟 昭6~9)

文學 岩波書店 昭8~49 (原誌の合冊製本)

文學 教育出版センター 昭54 (厚生閣書店 昭7~8)

文學會 日本近代文学館 昭50 (文化公論社→文庫堂書店 昭8~)

季刊保育問題研究 新説書社 昭 56
 (全国保育問題研究協議会 昭 37) (明 47)

ホトトギス 日本近代文学館 昭 47
 ・ 48 (ほととぎす発行所 明 31) (明 45)

まちづくり研究 首都圏総合計画研
 究所 (昭 49) (明 56)

團團珍聞 本邦書籍 昭 56・57 (團
 団々社 明 10・23)

民族学研究 国書刊行会 昭 52・53
 (三省堂下 民族協会→彰考書院→

野鳥	出版科学総合研究所	昭 55
(梓書房→菴林書房→日本野鳥の 会)	昭 9(19)	
復刻幼児の教育	名著刊行会	昭 54
(フレーベル会→日本幼稚園 協会)	明 34(昭 28)	
獵奇	出版ニユース社	昭 51
書房	昭 21	(西)
列島	土曜美術社	昭 54
知如書房	昭 27(28)	(葉会)
早稻田大學新聞	龍溪書舎	昭 55
(大 11(昭 19))		

早稻田文学 第一書房 昭53・54
(東京専門学校→早稻田文学社
明24(1954)年3月31日)

編集後記

五十九年度も『図書館だより』を県立図書館協力事業として四回発行することになりました。

今回は郷土玩具研究家石井莊男氏に、貴重な玩具収集について御発表いたしました。

また『埼玉の文学』については、文学碑研究に御造詣深い河本了氏に『埼玉の詩人』四回にわたり御執筆いたしました。

兩氏の御厚意に心から感謝申し上げます。

表紙は、蕨市広報課で写真提供いたしましたが、県内市町で多く用いられる『七夕』が多いことと、沼津市で開催された『七夕』について、県教育長井邦五郎氏の『埼玉の民俗行事』に詳しく述べられておりますので一読をおすすめいたします。